湘南たんぽぽ薬局のＢＣＰ

（業務継続計画）

様式Ⅰ

調剤薬局業務継続の基本方針

- 従業員及び患者様の安全確保を最優先とする
- 医薬品等の安定供給（営業の早期開始）を図る
- 地域の救護活動に参加する
- 従業員の雇用確保と地域貢献に努める

様式Ⅱ　被害の状況等の想定

種　　類：次の①，②を想定し，それぞれ作成してください。

①南海トラフ巨大地震：被害想定１参照

②徳島県中央構造線・活断層地震：被害想定２参照

１　薬局の周辺

対　象　項　目		被害状況　（利用の可否）			
		6時間	24時間	3日	7日
ライフライン	電　気	×	×	×	○
	上水道	×	×	×	×
	ガス	×	×	×	×
	電話（携帯）	×	×	○	○
	インターネット	×	×	○	○
	ＦＡＸ・固定電話	×	×	○	○
	下水道	×	×	×	×
道路	通行状況	×	×	○	○
鉄道	運行状況	×	×	×	×
バス	運行状況	×	×	×	×
通常処方せんを応需している医療機関の診療状況	湘南茅ケ崎徳洲会病院	×	○	○	○
	新家クリニック	×	×	○	○
その他特記事項	特になし				

2　薬局の被害状況

対　象　項　目		被　害　状　況　等
建　物　外　部		ひび割れ・亀裂有り。業務継続可能。
建物（天井、窓、壁等）		窓割れ、壁の亀裂有り。業務継続可能。
ﾗｲﾌﾗｲﾝ（水道、 トイレ、ガス、電気）		震災後全て停止
調　剤　設　備		・薬局内の物品等は散乱。損傷は少ない。 ・整理後、稼働の可否を確認する。
医薬品・資機材	薬局内保管分	使用可能（備蓄 ３日分）
	調達の見通し	卸売販売業者の再開予定は、不明
人員	従業員等の被害	軽微な外傷が１名のみ
	従業員の参集	参集可能な者から集合してもらう。
	応援の見通し	なし
お客様	お客様の被害	不明
	利用の見通 し	地域の被災状況は中程度のため、医療機関の再開に合わせて、利用が予想される。
その他・特記事項		特になし

3 従業員等の参集状況

（営業時間外）

氏　　名	職　種	自宅からの距離(km)	備考	発災後経過時間			
				６時間	24時間	３日	７日
高橋亜紀子	薬・管理	9.4		○	○	○	○
草場まどか	薬・パート	0.9		×	×	×	○
松村佳代	事務・パート	0.7		×	×	×	×
橋本真理子	薬・パート	25		×	×	○	○
真田康平	薬・開設	33		×	○	○	○

様式Ⅲ　　（通常・応急）　業務の把握と災害時の優先業務

			優先業務	
	業務内容　　（　）は業務番号		該当性	(順位)
通常業務	調剤業務	（1）　処方せんの受付、入力	○	
		（2）　処方せん監査・疑義照会	◎	
		（3）　薬袋	◎	
		（4）　計数調剤	◎	
		（5）　散剤計量調剤	○	
		（6）　内用液剤調剤	○	
		（7）　外用薬調剤　（軟膏剤、湿布剤、消毒薬等）	◎	
		（8）　調剤監査	◎	
		（9）　医薬品情報発行	○	
		(10)　服薬指導	◎	
		(11)　医薬品交付	◎	
		(12)　会計	○	
		(13)　調剤報酬請求	○	
	その他	（1）　一般用医薬品の販売	○	
		（2）　医薬部外品、 衛生材料の販売	○	
		（3）　食品、 日用雑貨の販売	○	
		（4）　在宅患者訪問薬剤管理指導	○	
		（5）　学校薬剤師	○	
応急業務	＜営業時に発災＞ ・お客（患者）様の避難誘導 ＜共通事項＞ ・従業員の安否、状況確認 ・店舗の状況確認 ・通常処方せんを応需している医療機関、薬剤師会等の 関係機関への連絡 ・ ・ ・ ・			

＜注意事項＞

該当性の欄　；　該当する業務に○。 優先度合いによって、 ◎○△を活用するなども良。

様式Ⅳ　優先業務ごとの評価と対策　（「　処方箋鑑査・疑義照会」の場合）

業務番号	（2）	業務名	処方箋鑑査・疑義照会

【業務資源とリスク評価】

下線　・　太字は必要不可欠な業務資源

業務資源			想定される被害状況	実施する予防策
ヒト		薬剤師	公共交通機関の停止による参集不可 道路の寸断、交通規制による参集不可	近隣居住者のパート採用 店舗への徒歩参集ルートの確認
モノ	常備品 ※薬局が日常的に保有しているもの		—	—	—
	外部調達品 ※外部からの定期的な供給が必要なもの		—	—	—
情報		処方箋	処方箋記載必須項目の記載もれ	災害時に最低限記載する必要がある項目を医療機関
ライフライン		電気	停電 照明の停止	—
		電話	使用困難	—

様式Ⅴ　業務継続目標とそ

の対策（「処方監査・疑義照会」の場合）

【業務継続目標】

※

発災後経過時間		6時間	24時間（１日）	72時間（３日）	
目標とするサービスレベル		△	△	△	
業務を継続するための方策・代替手段	サービス提供方法・手段の変更	薬剤師１名で対応	薬剤師２名で対応	（同左）	
		医療機関訪問による対面での疑義照会	（同左）	電話による疑義照会	
	サービス内容（量・質）の変更	開局時間の短縮（10～13時）	（同左）	（同左）	

サービスレベル　○：通常対応可　　△：部分対応可　　×　：対応困難

様式Ⅳ　優先業務ごとの評価と対策　（「　薬袋・（医薬品情報発行）　　」の場合）

業務番号	（3）	業務名	薬袋・（医薬品情報発行）

業務資源			想定される被害状況	実施する予防策
ヒト		事務員	道路の寸断、交通規制による参集不可	店舗への徒歩参集ルートの確認
モノ	常備品 ※薬局が日常的に保有しているもの	レセプトコンピュータ	他機材の落下による故障 停電による停止	周辺他機材の固定
		薬袋発行用プリンタ 印字済み薬袋	他機材の落下による故障 停電による停止	周辺他機材の固定
		医薬品情報提供文書印 刷用プリンタ	他機材の落下による故障 停電による停止	周辺他機材の固定
	外部調達品 供給が必要なもの	薬袋	揺れによる散乱	保管場所の固定
		医薬品情報提供文書用紙	揺れによる散乱	保管場所の固定
情報		処方箋	（業務番号（2）で検討）	（業務番号（2）で検討）
ライフライン		電気	停電 照明の停止	―

【業務資源とリスク評価】　　下線　・　太字は必要不可欠な業務資源

様式Ⅴ業務継続目標とその

対策（「薬袋・医薬品情報発行」の場合）

【業務継続目標】

発災後経過時間		6時間	24時間（１日）	72時間（3日）	
目標とするサービスレベル		△	△	△	
業務を継続するため替手段	サービス提供方法・手段の変更	薬剤師１名で対応	薬剤師２名で対応	（同左）	
		手書きによる薬袋作成	（同左）	（同左）	
		注意事項の印字スタンプの利用	（同左）	（同左）	
		手書きによる医薬品情報提供文書の作成	（同左）	（同左）	
	サービス内容	医薬品情報提供文書記載内容の簡略化	（同左）	（同左）	

	（量・質）の変更	開局時間の短縮（10～13時）	（同左）	（同左）	

※サービスレベル　○：通常対応可　　△：部分対応可　　×：対応困難

様式Ⅳ　優先業務ごとの評価と対策　（
「　計数調剤（錠剤、カプセル剤）
　　」　の場
合）

業務番号	（４）	業務名	計数調剤（錠剤、カプセル剤）

下線　・　太字は必要不可欠な業務

【業務資源とリスク評価】　　資源

業務資源			想定される被害状況	実施する予防策
ヒト		薬剤師	公共交通機関の停止による参集不可 道路の寸断、交通規制による参集不可	近隣居住者のパート採用 店舗への徒歩参集ルートの確認
モノ	常備品 ※薬局が日常的に保有しているもの	はさみ 輪ゴム	揺れによる散乱	保管場所の固定
	外部調達品 供給が必要なもの	錠剤、カプセル剤	調剤棚の倒壊による錠剤・カプセル剤の散乱、損失 卸売業者の倉庫被災による供給停止 道路の寸断、　交通規制による供給停止	調剤棚の固定 最低３日分の錠剤、カプセル剤の常備
			揺れによる散乱	保管場所の固定 最低３日分の常備
情報		処方箋	（業務番号（２）で検討）	（業務番号（２）で検討）
ライフライン		電気	停電 照明の停止	―

様式Ⅴ　業務継続目標とその対策（「　計数調剤

（錠剤、カプセル剤）」の場合）

【業務継続目標】

※

発災後経過時間		6時間	24時間（１日）	72時間（３日）	1週間
目標とするサービスレベル		△	△	—	（
業務を継続するための方策・代替手段	サービス提供方法・手段の変更	薬剤師１名で対応	薬剤師２名で対応	（同左）	
		保管庫でのヘッドライトの利用	（同左）	（同左）	
	サービス内容（量・質）の変更	開局時間の短縮（10～13時）	（同左）	（同左）	
		調剤日数の短縮（2日分）	（同左）	（同左）	

サービスレベル　○：通常対応可　　△：部分対応可　　×　：対応困難

様式Ⅳ　優先業務ごとの評価と対策　（「　外用薬調剤　（軟膏剤、湿布剤、消毒薬等）　　」 の場合）

業務番号	（７）	業務名	外用薬調剤　（軟膏剤、湿布剤、消毒薬等）

【業務資源とリスク評価】
下線　・　太字は必要不可欠な業務資源

様式Ⅴ業務継続目標とその対策（「

外用薬調剤（

軟膏剤、湿布剤、消毒薬等

業務資源			想定される被害状況	実施する予防策
ヒト		薬剤師	公共交通機関の停止による参集不可 道路の寸断、交通規制による参集不可	近隣居住者のパート採用 店舗への徒歩参集ルートの確認
モノ	常備品 ※薬局が日常的に保有しているもの	はさみ 輪ゴム	揺れによる散乱	保管場所の固定
	外部調達品 供給が必要なもの	軟膏剤、湿布剤、消毒薬	調剤棚の倒壊による軟膏剤、湿布剤、消毒薬等の散乱、損失 卸売業者の倉庫被災による供給停止 道路の寸断、 交通規制による供給停止	調剤棚の固定 最低３日分の軟膏剤、湿布剤、消毒薬等の常備
			揺れによる散乱	保管場所の固定 最低３日分の常備
情報		処方箋	（業務番号（２）で検討）	（業務番号（２）で検討）
ライフライン		電気	停電 照明の停止	―

）の場合」

【業

務
継
続
目
標
】

※

発災後経過時間		6時間	24時間（１日）	72時間（３日）	1週
目標とするサービスレベル		△	△	―	（
業務を継続するための方策・代替手段	サービス提供方法・手段の変更	薬剤師１名で対応	薬剤師２名で対応	（同左）	
		保管庫でのヘッドライトの利用	（同左）	（同左）	
	サービス内容（量・質）の変更	開局時間の短縮（10～13時）	（同左）	（同左）	
		調剤日数の短縮（2日分）	（同左）	（同左）	

サービスレベル　○：通常対応可　　△：部分対応可　　×　：対応困難

様式Ⅳ　優先業務ごとの評価と対策　（「　調剤監査　　」 の場合）

業務番号	（８）	業務名	調剤監査

【業務資源とリスク評価】
下線　・　太字は必要不可欠な業務資源

様

式Ⅴ業務継続目標とその対策（「　　調剤監査」の場合）

【
業
務
継
続
目
標

業務資源			想定される被害状況	実施する予防策
ヒト		薬剤師	公共交通機関の停止による参集不可 道路の寸断、交通規制による参集不可	近隣居住者のパート採用 店舗への徒歩参集ルートの確認
モノ	常備品 ※薬局が日常的に保有しているもの	紙薬歴	揺れによる散乱	―
	外部調達品 供給が必要なもの	―	―	―
		―	―	―
情報		処方箋	（業務番号（２）で検討）	（業務番号（２）で検討）
ライフライン		電話	使用困難	―

】

発災後経過時間		6時間	24時間（１日）	72時間（３日）	1週間
目標とするサービスレベル		△	△	―	（
業務を継続するための方策・代替手段	サービス提供方法 ・手段の変更	薬剤師１名で対応	薬剤師２名で対応	（同左）	
			（同左）	（同左）	
	サービス内容（量・質）の変更	開局時間の短縮（10～13時）	（同左）	（同左）	

※			目視での監査 ダブルチェックの徹底	（同左）	（同左）	

サービスレベル　○：通常対応可　　△：部分対応可　　×　：対応困難

様式Ⅳ　優先業務ごとの評価と対策　（「　服薬指導　」 の場合）

業務番号	（１０）	業務名	服薬指導

【業務資源とリスク評価】
下線　・　太字は必要不可欠な業務資源

様式Ⅴ業務継続目標とその対策（

「服薬指導」の場合）

業務資源			想定される被害状況	実施する予防策
ヒト		薬剤師	公共交通機関の停止による参集不可 道路の寸断、交通規制による参集不可	近隣居住者のパート採用 店舗への徒歩参集ルートの確認
モノ	常備品 ※薬局が日常的に保有しているもの	タブレット	使用困難	保管場所の固定
	外部調達品 供給が必要なもの	―	―	―
		―	―	―
情報		―	―	
ライフライン		電気 インターネット	停電 照明の停止	―

【業務継続目標】

※

発災後経過時間		6時間	24時間（１日）	72時間（３日）	1週
目標とするサービスレベル		△	△	—	（
業務を継続するための方策・代替手段	サービス提供方法 ・手段の変更	薬剤師１名で対応	薬剤師２名で対応	（同左）	
		タブレットにて遠隔で説明も検討 対面指導は通常通り	（同左）	（同左）	
	サービス内容（量・質）の変更	開局時間の短縮（10～13時）	（同左）	（同左）	

サービスレベル　○：通常対応可　　△：部分対応可　　×　：対応困難